

琉球大学学術リポジトリ

スイカの接木

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮城, 滋 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19562

スイカの接木

スイカ栽培で最も警戒を要する病害は蔓割病である。この病害は圃の發育適温の關係で取穫間際に發生し、しかも地下部から組織の中を上つてくるので茎や葉に薬剤をかけても効果はななく罹つたものは枯れるのを待つばかりであり、スイカの栽培上みががすことの出来ないものである。この病害の防除には蔓割病に抵抗性のある瓜類（カンピヨウやカボチャ）を台として之にスイカを接ぐことが行われて居る。

カンピヨウやカボチャに接ぐと、蔓割病を防ぐのみでなく移植が容易であり又、養水分の吸取力が旺盛で施肥量が割合に少くてもよく収量が増加する等の利点がある。カンピヨウは炭疽病に弱く、更に耐湿性が乏しいので定植後降雨の多いため地下水が高くなる場合や接木活着までの密閉中に灌水が多すぎると台が腐れやすい欠点がある。

一、台木及び穂木の育成

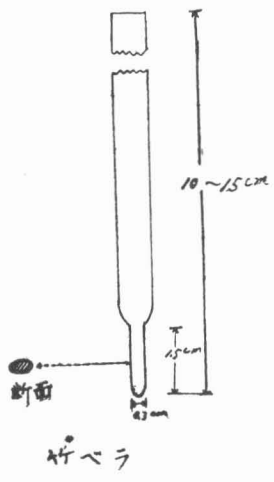
カンピヨウはなかなか発芽しないので、前以て充分水を吸わせて三十度位の堆肥の中に埋めて発芽を促すと良い、これを三寸×二寸に播く。台木を播いて五、六日後にスイカを播く。スイカとカンピヨウを同時に播くとスイカの方が遙かに早く発芽し發育するので台木が若く穂が古い状態にあるのでなかなかつかない。

接木はカンピヨウ台は子葉が少し出かけたものがよいが、カボチャの場合は茎に早くから空洞が出来るのでカンピヨウ台よりも若台を用いるがよい。穂は子葉が開かんとする時かやつと開いた時が最もよい。ただしこの前に雨天が続くと台穂とも軟弱になり活着が思わしくない。穂軸の長さが二、三、五cmで真直ぐでしつかりしたものでなければならぬ。そこで接木百前から灌水をひかえて丈夫に育てることが大切である。接木は台穂とも適当な時期でしかも晴天にして風の無い日が最も

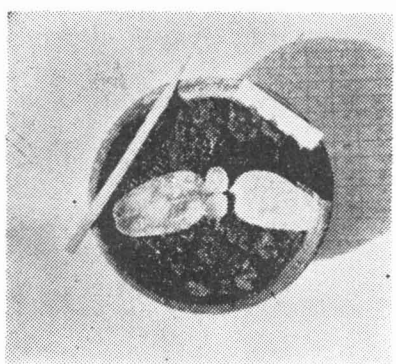
も良い。場所はフレームに台木を入れたまゝ、接いでもよいが暖かい室内で撒水して行えば最も良い。

二、接木法

接木用具は安全カミソリの刃と竹ペラを用いる。まず初めにカミソリの刃で台の芽をくりとる。取り方が不十分であると脇芽が伸びてくるので出来るだけ完全にぬきとる。



次に穂を切り取るが穂軸の下方三分の一余り切り落し、子葉を人指しゆびのつきねと親ゆびではさみ人指しゆびの先をマナ板にして、両側より軽く皮を剥き楔形にする。穂軸は発根部に近い部分を使うと活着後穂から発根するのでこれから蔓割病が発生することもあるし又生育も悪い。



カンピヨウの台木にスイカの穂を接いだもの。台木の子葉と穂の子葉とが直角に交叉する様に接ぐ事が重要で、鉢の右側にいるのは安全カミソリの刃で、左側は竹ペラ。

削つた穂は唇でくわえるか或は水のはいつた茶碗に入れて乾燥を防ぐ。次に竹ペラで台木の芽を切り取つた所から茎に穴をあけ穂を挿しこむ。台木と穂木の形成層が接する様に穴をやや斜めにあけるがよい。出来上りは台の子葉と穂の子葉とが直角に交叉する様にする。穴をあける際に竹ペラが外に突出してしまふことがあるが、これもそのまゝ穂を挿してよ。

三、接木苗の管理

接木操作が終ると、二十四、五度の温床に三寸×二寸に植え付けるか三寸鉢に植えて灌水を行う。灌水量が多過ぎるとカンピヨウ台は地際より腐る、接木部に水がたまること腐れ易いので葉に水がかからないように注意する。

植付終了後直に温床の障子を密閉し厚いコモをかけ真暗にしよう。障子と障子との間に隙間があつてはならない。一般農家では温床を持たないので三、四寸鉢に植付けて作業部屋の隅の暗い所で空箱等をかぶせておくこともよい。

接木の操作は実に簡単なものであるが活着するか否かは、大抵其後の管理によるのである。接木後の温度、湿度、光線の調節には一層注意を払わねばならぬ。接木の翌日スイカがピンと立つておればまず大丈夫、翌々日は薄いコモとかえ朝夕短時間コモをとつて弱光をいれる。障子も細めに開けて換気する後次第に光を当てる時間を長くし障子も大きく開けて行く。接木後一週間位でコモ掛けはやめる。しかし十日頃までは光線の強い時は薄いコモをかける。活着後台の脇芽が伸びることがあるから早く取り去る。

その後は普通苗と同じように管理すればよい。

四、をわりに

蔓割病の防除に接木栽培の他に、輪作も考へられるが相当危険である。雨水などで菌がほとんど運ばれるためである。圃は土壌中に五、六年以上も生存する。薬剤で消毒できないこともないが、西瓜の根は非常に深く広く分布するので、根の分布する範囲全部を消毒することは到底不可能なことである。

この菌はアルカリ性に割合に弱いので土をアルカリ性にする
ことに依つて菌の発育を弱め、発病を少くすることが出来る。
したがつて木灰、石灰などを施用するか、或は基肥に石灰窒素
を相当量施用することも合理的な方法である。しかしこれ等は

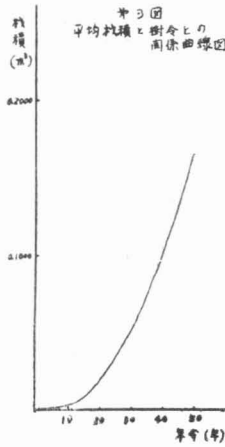
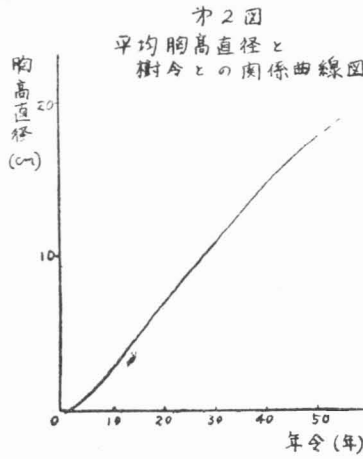
いづれも完全に鬱割れ病を防ぐことは出来ない。それ故スイカ
の集約栽培には接木する事が最も良いと言えよう。育苗のついで
に技術者が一部落のものを引受けて行う事も考えられる。
(宮 城 滋)

樹木はどの位の成長をしているでしようか

—特にオキナワシイについて—

2 肥大成長

平均直径と年令の関係を図示すると、第2図のようになりま
す。このグラフも第1図の場合と同様の方法で読めばよく、又
注意すべき事も同様であります。唯平均直径は、地上1・三
m (大体胸の高さ) の位置における直径を用いてあります。



平均材積と年令との関係は、第3図の通りで、グラフの読み
方、注意すべき点等、皆前と同じであります。

3 材積成長

4 毎年の成長量算出

以上で直径、樹高及材積の成長が、大体わかりました。所で
毎年どの位の成長をしているかという事が、次には問題になつ
てきます。

即ち第1図、第2図、第3図のグラフは、夫々調査が五年毎
になされているからです。勿論一年毎の調査をした方が正確な
値は出てくるのですが、普通私達は、五年或は十年毎の成長を
調査し、毎年の成長量は、例えば次のようにして求めるわけ
です。例を第1図にとつてみましょう。

まず第1図を表示すると、第1表の通りになります。

第 1 表

年 令年	平均樹高 (m)
5	2.03
10	3.69
15	5.19
20	6.58
25	7.70
30	8.57
35	9.40
40	10.17
45	11.18
50	11.85

第1表から私達は、オキナワシイが発芽してから五年間で、
二・〇三m

次の五年間は(五年から十年まで)三・六九mと二・〇三m
の差即ち、一・六六m

以下同じようにして

一〇年から一五年までは、一・五〇m

一五年から二〇年までは、一・三九m

四五年から五〇年までは、〇・六七m

以上の事から、最初の五年間は(五年まで)二・〇三mを五
年でわつて、一年間に〇・四一m樹高がのびている。

次の五年間は(五年から一〇年まで)一年間に〇・三三mの
びている。以下同じように

一〇年から一五年までは、〇・三〇m

一五年から二〇年までは、〇・二八m

四五年から五〇年までは、〇・二三m

それぞれ一年間にのびているという事が、分ります。この一
年間の成長量を、林業家は、連年成長量と名付けます。結局連
年成長量は、

一年毎の差を求めるべきですが、普通五年、或は一〇年毎の
成長量の差を求めて、五或は一〇でわり、それを連年成長量と
呼ぶわけがあります。

尚第1表によりますと、五〇年で一・八五mの成長をして
いますが、これを総成長量と名付けます。例えば私達が、あの
木の高さは二二m位だ、或はあの木は二石位はある、という時
その二二mとか一石とかいう数値は、総成長量を示している事
になります。

更に第1表によりますと、五〇年で樹高が一・八五mとな
つていますが、一・八五mを五〇でわつた値〇・二四mを平
均成長量(くわしくは総平均成長量)といふます。

即ち一年に〇・二四mづつのびて五〇年で一・八五mにな
るという事です。

ですから五年間の成長量を五年でわつて連年成長量を求める
という事も、厳密にいえば五年間の平均成長量だという事がい
えるわけです。(こんな平均成長量を定期平均成長量といいま
す。)